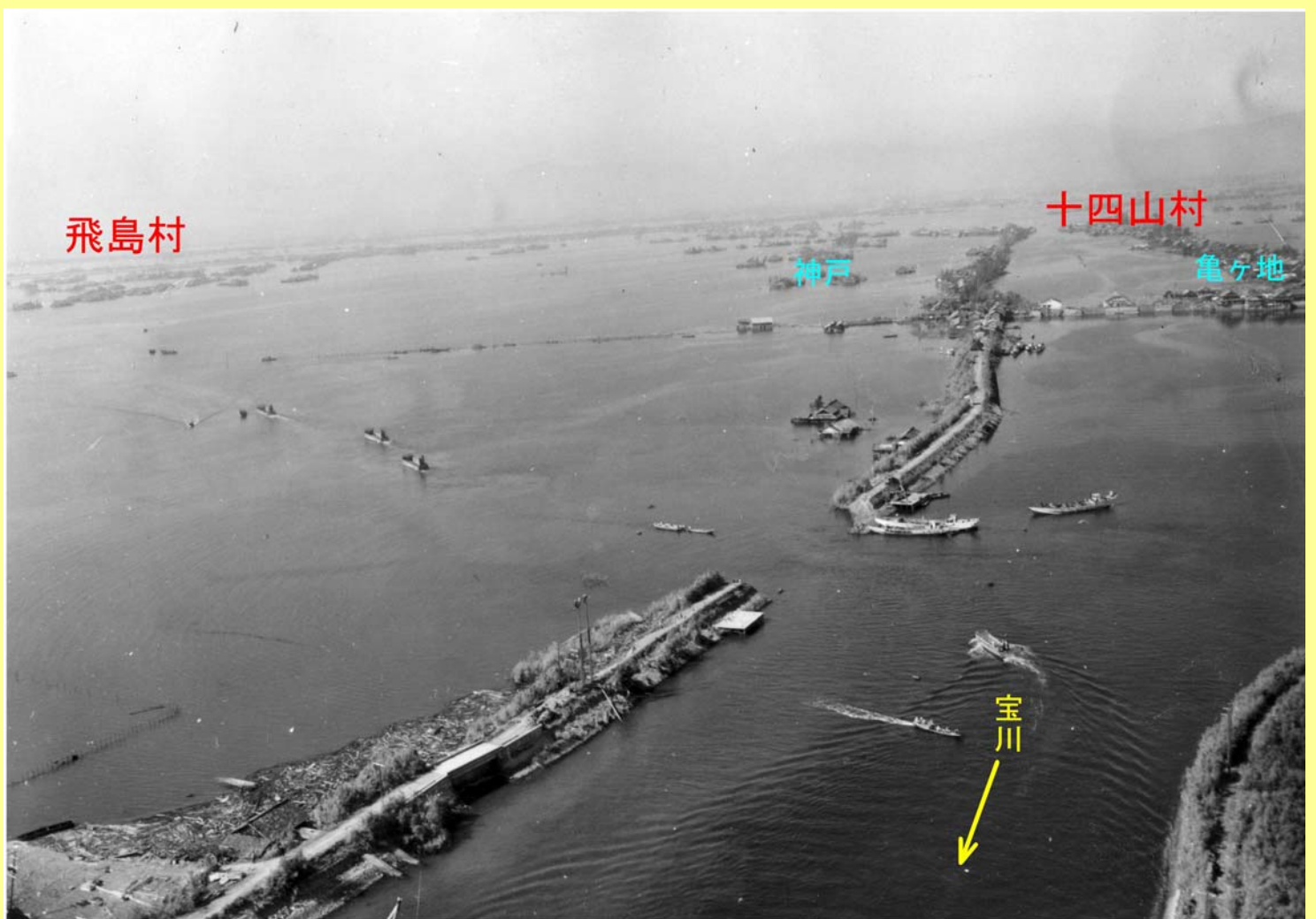


伊勢湾台風写真台帳



写真名称： 宝川河口付近、十四山村神戸の海岸堤防を上空東方向から望む

現地状況、コメント等

エリア： 愛知県

撮影箇所： 飛島村，十四山村

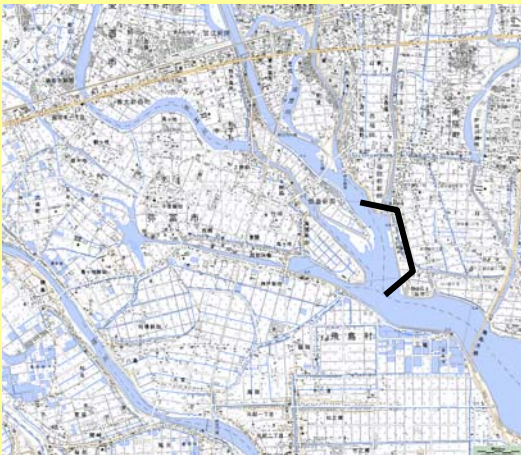
撮影日： 1959年

撮影者： 陸上自衛隊

資料提供者： 中部地区自然災害科学資料センター

状況： ー

撮影位置



※国土地理院発行地形図を使用

〔被災した方の所見（十四山村）〕

宝川河口右岸の破堤部で、神戸、亀ヶ地が見られる。中央部の破堤部は当時の防潮水門のそばであった。付近の水深はかなり深く、18号口と呼ばれた（「伊勢湾台風体験記」（十四山村教育委員会））。

伊勢湾台風時には、この堤防を消防団が見張っていた。決壊間近には越水により、堤防に土嚢を積んでも流されてしまっていた。そのため、堤防を守ることを断念し住民に避難を伝達しに行ったが、住民は堤防が切れるわけがないと思っていた。自宅では、雨戸の間から水がシューっと噴き出したため、2階に避難したが、畳が浮いてしまい、何も持ち出せなかった。破堤口の滞止めは清水建設が請け負い、十四山の村民が動員された。堤防上に本部が設置され、朝7時から夕方5時ぐらいまで潮の干満にあわせて作業が行われた。工事着手の始めの頃は、水の流れがさほど早くなかったが、工事が進み他の決壊部が概ね締め切られると、浸水の流れが非常に早くなりどうしても締め切ることが出来なかった。その結果、自衛隊が実施した尾西作戦と呼ばれる応急復旧工事（筏川仮締め切りと筏川堤防から神戸地区東の宝川右岸に至る旧干拓堤の嵩上工事による連続した仮締め切り工事）の一部を変更し、県道蟹江飛島線をサンドポンプ船による送砂、吹きつけにより締め切ることとした。土地の買収は、幅4mで実施された。やはり流れは速く、自衛隊は杭に命綱を結びつけて作業を進めた。県道を締め切った後、18号口は最後に締め切られた。なお、十四山村も老人、子供は舟で祖父江、一宮に疎開した。その際に、米軍のヘリコプターが墜落事故を起こしている。

〔被災した方の所見（飛島村）〕

宝川河口の破堤部で、神戸、亀ヶ地が写っており県道蟹江飛島線がかすかに見られる。潮の干満に関わらず、舟が行き来できるほど浸水が深かった。